

2019 年度
事業報告書

2019年4月1日から
2020年3月31日まで

一般財団法人
九電みらい財団

2019 年度は、前年度の実施状況や評価等を踏まえ、環境活動（環境保全活動と環境教育活動）、次世代育成支援活動および活動の情報発信について充実を図るとともに、新規活動を実施

I 環境活動

1 坊ガツル湿原（大分県竹田市）での環境保全活動および周辺地域での希少植物保護活動

- 坊ガツル湿原の保全及びその一帯に生息する希少植物の保護のため、湿原の野焼きや希少植物保護、植生保護等の活動を計画
- 各活動とも概ね計画どおりに実施できたものの、一部で悪天候による延期や新型コロナウイルス感染症拡大に伴う実施見送りにより、参加者は507名（前年度比78名減）

(1) 坊ガツル湿原 野焼き活動

- 当財団と地元の団体・企業等で構成する「坊ガツル野焼き実行委員会（事務局：当財団）」を中心に、九州電力(株)大分支社および地元団体と連携のうえ、活動を実施（輪地切り、輪地焼き）
- なお、本焼きについては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府からの外出自粛要請に伴い、実行委員会としての実施は見送り（地元の有志により実施）
- 「坊ガツル野焼き実行委員会」による野焼き活動が、1999年度の活動再開から20周年を迎えたことから、同委員会と連携し、九州電力(株)大分支社にて記念式典を開催（7月5日）

活 動	内 容	実施日	参加者
輪地切り	野焼きの際の延焼を防止するための防火帯をつくる作業	8/17	145名
輪地焼き	防火帯部分に新芽が出ないように、刈った草を集め焼き払う作業	9/16	126名
本焼き	防火帯の内側に火入れを行い、坊ガツル湿原一帯を焼く作業	感染症拡大に伴い 実施見送り	

(2) 坊ガツル湿原 希少植物保護活動

内 容	実施日	参加者
湿原の希少植物保護のため、外来植物を除去する作業	7/13	81名

(3) 平治岳（大分県竹田市）ミヤマキリシマ植生保護活動および登山道整備

内 容	実施日	参加者
希少植物であるミヤマキリシマの植生を保護するため、生育の支障となる樹木（ノリウツギ等）を伐採するとともに、老朽化している登山道を整備	4/6	77名
	11/8	78名

(4) その他の活動

- ラムサール条約が求める「保全」と「活用」の観点から以下の活動を実施

内 容	実施日	参加者
坊ガツルを訪れる機会がない方を対象に、登山や写真撮影の指導を行うバスツアーを企画・実施	上期は悪天候のため中止※	
平治岳のミヤマキリシマ植生保護範囲をやまなみハイウェイから眺望できる北側斜面にも拡大し、観光資源化を目指すため、環境省に伐採許可を申請 ※2/19 許可受領	1/21	—

- ※ 参加者からの評価は高いものの、費用対効果の改善が困難であることから、下期以降の活動継続は断念

(5) 活動の評価

- 各活動とも、大分以外の県やグループ各社からも多くの参加者がある一方で、同じ方の参加が多い傾向がみられるため、活動の意義や魅力を積極的に発信するなど、参加者の裾野を広げる取組みが必要
- 野焼き活動は、後継者の着実な育成に向けて、「リーダー養成研修」を受講したリーダー候補者に計画的に作業経験を積ませる取組みが必要

2 山下池周辺（大分県由布市）での環境教育活動

- 市民の環境保全意識の向上のため、山下池周辺の九州電力社有林「くじゅう九電の森」において、次世代（小・中・大学生）や保護者を対象に、「講話」と「体験」から成る環境教育を実施

(1) 学校向け

- 福岡県、佐賀県、大分県内の教育委員会や校長会等を通じて各学校等に案内し、計 18 回実施、1,224 名（子ども 1,142 名、引率 82 名）参加（前年度比 247 名増）
〔内訳：小学校 16 校、中学校 1 校、大学 1 校、児童クラブ 3 団体〕
- 校長会での P R や募集開始の早期化に加え、1 回の受入れを 90 名に拡大したことで参加申込み校及び参加者数が増加
（平均参加者数：2018 年度 56 名/回 ⇒ 2019 年度 68 名/回）
- 将来の次世代教育を担う教員志望の大学生（福岡教育大学）を対象とした環境教育を開催し、通常のプログラムに加え、教員の視点で小学生向けプログラムの改善提言を行うワークショップを実施

	実施日	対 象		子ども	引率	計	
		（※は新規校）					地域
1	5月23日（木）	由布市立由布院小学校		大分	65	4	69
2	5月24日（金）	別府市立緑丘小学校		大分	49	4	53
3	6月4日（火）	福岡市立玉川小学校①	※	福岡	74	2	76
4	6月5日（水）	福岡市立早良小学校		福岡	35	3	38
		福岡市立春吉小学校		福岡	29	2	31
5	6月6日（木）	臼杵市立福良ヶ丘小学校	※	大分	45	4	49
		福岡市立能古小学校	※	福岡	41	4	45
6	6月7日（木）	福岡市立玉川小学校②	※	福岡	37	3	40
7	8月20日（火）	国東市協育ネットワーク		大分	43	5	48
		豊後大野市教育委員会		大分	42	6	48
8	8月21日（水）	西高塾		福岡	33	9	42
9	9月10日（火）	大分市立神崎中学校		大分	23	3	40
10	9月11日（水）	福岡市立日佐小学校		福岡	71	4	75
11	9月12日（木）	大牟田市立明治小学校		福岡	37	3	40
		北九州市立富野小学校	※	福岡	47	4	51
12	9月13日（金）	福岡市立吉塚小学校		福岡	78	3	81
13	9月25日（水）	福岡教育大学		福岡	30	1	31
14	10月1日（火）	筑紫野市立二日市小学校①		福岡	台風のため中止		

15	10月2日(水)	筑紫野市立二日市小学校②	福岡	台風のため中止		
16	10月3日(木)	大牟田市立白川小学校	福岡	52	3	55
17	10月4日(金)	福岡市立当仁小学校 ※	福岡	86	6	92
18	10月16日(水)	福岡市立愛宕浜小学校	福岡	76	3	79
19	10月17日(木)	福岡市立城南小学校① ※	福岡	78	3	81
20	10月18日(金)	福岡市立城南小学校② ※	福岡	71	3	74
	計			1,142	82	1,224

(2) 親子向け

- 九州全域の親子を対象とした環境教育を実施。次世代向けの環境教育に加え、保護者とともに楽しむ工作やピザ焼き体験など、親子向けのイベントとして実施
- 小学校へのチラシ配布等により参加者を募集し、計8回実施(※)、1,143名(※)（子ども544名、大人599名）参加（前年度比845名増）
 - ※ 九州電力主催の水源涵養林事業100周年記念イベント「プレイフォレスト in くじゅう九電の森」の共同実施分（2回、744名）を含む
- 今年度から土日連続開催での現地集合とし、参加費を徴収したことで、参加エリアが拡大したほか、コスト削減により実施回数が増加（前年度比2回増）

	実施日	対 象	子ども	大人	計
1	4月20日(土)	九州全域の親子	37	38	75
2	4月21日(日)	〃	26	33	59
3	7月28日(土)	〃	23	24	47
4	7月29日(日)	〃	42	39	81
5	8月3日(土)	〃	32	30	62
6	8月4日(日)	〃	34	41	75
7	10月6日(土)	九州全域の親子	143	166	309
8	10月7日(日)	※九州電力主催のイベントと共同実施	207	228	435
	計		544	599	1,143

(3) 活動の評価

- 引率として参加した教員や保護者からは、プログラムの内容に加え、安全管理や実施体制も含め高い評価を得ている。また、大学からは「教員に必要な豊かな人間性の形成に有意義な社会体験活動」との高い評価を得ていることから、次年度は大学向け取組みを拡大
- 親子向けについては、土日連続開催の場合、参加者が一方に偏る傾向が見られたため、単日開催を基本としつつ参加者数を増やす工夫が必要

II 次世代育成支援活動

1 募集

- 少子化や共働き世帯の増加など、子ども達の育成環境を取り巻く現状や課題の中から、有識者の意見や他財団の活動事例も踏まえ、前年度に引き続き「子ども達への支援活動」と「子育て世帯への支援活動」を募集テーマに設定
- 募集にあたっては、当財団のホームページや九州電力のフェイスブック、九州各県の社会活動推進担当部署等を通じた社会活動団体支援ネットワークのメールマガジン等により幅広く周知したほか、助成金を希望する団体向けの助成金フォーラムにおいて活動紹介を実施し、応募を呼びかけ

2 選考結果（参考資料2参照）

(1) 2019年度

- 九州各地から121件（平均で75万円の助成希望）の応募があり、選考委員会で審議のうえ、23件（約15百万円）の団体に助成。助成にあたり、財団の活動PRや団体との関係強化に向け、九州電力の各支社で贈呈式を実施
- 団体の活動取材し財団ホームページやフェイスブックで紹介（団体の活動時には財団の助成活動である旨を明示）
- 2018年度助成団体を対象に、ホームページ閲覧者による共感できる活動へのWeb投票や、応援コメントを受け付ける「みらい応援キャンペーン」を実施し、評価が高い3団体に奨励金（各10万円）を贈呈

なお、本キャンペーンについては、助成団体・当財団の活動の認知拡大等を目的に2017年度から行ってきたが、情報発信ツールの充実などにより、当初の目的は概ね達成できたため、2019年度をもって終了

(2) 2020年度

- 2019年度と同様のテーマで募集した結果、102件（平均78万円の助成希望）の応募があり、選考委員会で審議のうえ、23件（約15百万円）の助成を決定

3 助成先団体の概要

(1) 助成分野と件数

テーマ	活動分野	助成件数	
		2019年度	2020年度
子どもたちへの支援	子どもの貧困対策や居場所づくり、ハンディキャップを抱える子どもの支援	5	4
	郷土教育や演劇・音楽等、様々な体験を通じた次世代育成	12	10
子育て世帯への支援	共働き世代への子育て支援	6	9

(2) 地区別応募・選考状況

	地区	北九州	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島	合計
2019 年度	応募	18	21	17	8	12	18	14	13	121
	選考	3	5	3	2	2	3	3	2	23
2020 年度	応募	13	28	15	2	10	12	8	14	102
	選考	3	5	3	1	2	4	2	3	23

4 活動の評価

- 助成先団体からは、助成だけでなく広報面での支援や事業所によるイベントへの協力について高い評価をいただいている。
- 2019 年度中に、8 団体（過去の助成先を含む）が、九州電力の事業所とイベント等で協働したほか、団体間でも 2 件の協働が実現するなど、単なる助成にとどまらず継続的な関係構築につながっている。

Ⅲ 活動の情報発信

- ホームページや SNS（フェイスブック、インスタグラム）のほか、九電グループ生活情報誌「みらいと」など多様な媒体での情報発信を実施
- ・ インスタグラムでの写真コンテストや各活動時における参加者への PR により、フォロワー数が増加

[2019 年度の報道実績]

()内は昨年度の実績

内 容	T V	新聞	合計
坊ガツル湿原一帯での環境保全活動	2	10	12(9)
くじゅう九電の森での環境教育	0	1	1(1)
次世代育成支援活動	3	17	20(13)
その他	0	4	4(2)
合 計	5	32	37(25)

[SNS フォロワー数]

S N S	2020 年 3 月末	2019 年 4 月
フェイスブック (2016.8~)	1,144	948
インスタグラム (2017.11~)	1,931	1,342

- ・ 当財団の活動時の写真等で構成した「九電みらい財団カレンダー2020」を製作し、各種イベントで配布
- ・ 環境活動が、九州電力の新 TV CM「人と自然と、つくるみらい篇」に採用

- 大分県からの要請により、2020年8月に大分県九重町を中心に開催される第5回「山の日」記念全国大会実行委員会のアドバイザーに就任
- 2019年12月に開催された「九州水フォーラム2019」のパネル・ディスカッションにパネリストとして登壇し、くじゅう坊ガツル湿原での野焼き活動等について紹介

IV その他

1 賛助会

- 財団事業を支援する賛助会は、九州電力のグループ会社30社が入会（賛助会費計680万円）
- 財団事業の趣旨に賛同いただける個人（1口1,000円）・団体（1口100,000円）からも寄附の受け入れを開始（個人15名から計90口の寄附を受入れ）

2 積立資産の運用

九州電力から拠出された積立資産（5,000万円）について、積立資産運用規程に則り運用（2019年度末時点で4社、5,000万円の社債を保有）

	銘柄	格付	購入額	利率	期間 (満期)
1	ユナイテッド・アーバン投資法人 第17回無担保投資法人債	AA	1,000万円	0.240%	5年6ヶ月 (2023年11月)
2	ソフトバンクグループ(株) 第53回無担保投資社債	A-	1,000万円	1.570%	約6年 (2024年6月)
3	商船三井ブルーオーシャン環境債 (株)商船三井第21回無担保社債	A-	2,000万円	0.420%	約5年 (2023年9月)
4	ハピネスモール債 イオンモール(株)第19回無担保社債	A-	1,000万円	0.3%	5年 (2024年3月)

3 事業報告の附属明細書

- 2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第64条において準用する第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上